

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名				
○保護者評価実施期間	令和7年2月1日 ～ 令和7年3月25日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	47	(回答者数)	16
○従業者評価実施期間	令和7年2月1日 ～ 令和7年3月25日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月27日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にを行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別療育を中心とした支援 指導員とお子さまとがマンツーマンで取り組むことにより、お子さま一人一人の持っている「好きなもの」「得意なもの」に着目し潜在的な能力を引き出せるよう環境を整えています。	当事業所では、お子さまが「楽しい」と思ってもらう「遊び」の中から、その子の潜在的な成長を促すことができるように、その子に合わせた課題設定や環境調整をしています。また、その子自身が自ら成長を実感できるよう自尊感情を育むためスモールステップで支援を提供しています。	・子どもが自らやりきる力を身につけ、またその力の発揮を促せるよう、自ら選んだ教材で課題に取り組めるよう環境調整を行っています。
2	保護者支援・家族支援の充実 保護者とのコミュニケーションの時間を大切に、コミュニケーションから得られた情報や課題を支援へ反映させる取り組みをしています。また事業所の様子だけでなくご家庭での様子を伺い適切な助言や提案を行いながら、家族全体をサポートできるよう体制づくりをしています。	保護者交流会を定期的に開催し、保護者同士のつながりを作ることで、育児や子育てに役立つ情報や取組を共有できる場を設け、保護者の自尊感情の向上にお役立ちできるよう工夫しています。また、保護者からの要望があれば、職員がお子さまが通っている保育園など訪問して、集団生活における課題など園と共有しながら支援に反映させる取組をしています。	保護者支援の取組の一環として、当教室が取り入れている専門的な支援方法を家庭においても取り入れやすくするため、保護者向けの研修会を開催しています。今後も継続して定期的に保護者向けの講座や研修を開催していきたいと思えます。
3	専門職による支援体制 当教室には言語聴覚士と作業療法士が在籍し、「ことばの遅れ」や「手先が不器用」などの課題に対し、専門職が介入することにより、より精度の高い具体的な支援を提供をしています。また、保護者の同意を得た上で、各関係機関などで行った検査内容を共有することにより、専門職による評価やアセスメントを行った上で、充実した個別支援計画を作成し支援に反映しています。	言語訓練用の部屋や、安全に運動できるマットを敷いた空間を用意することで、それぞれの専門職がより充実した環境のもと支援を提供できるよう、訓練室の配置を工夫しています。また同時に、それぞれのお子様の課題設定にあわせた空間をつくることで個別に支援できるよう工夫しています。	日ごろの情報共有や研修会を通し、専門職以外の支援者でも、専門的な支援を提供できるよう体制を整えています。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	「支援プログラム」に自社ホームページや教室内の掲示により既に公表されているが、利用者さまに浸透できていない。	利用者さまに対して、「支援プログラム」の公表について、一方的な掲示や公表に頼り、直接お伝えできていなかった。	ご利用者さまとの普段のコミュニケーションの中から、「支援プログラム」についての丁寧な説明を行っていくことを心がけていきます。
2	保育園や幼稚園の子どもたちと、当教室へ通っている子どもたちとの直接的な交流ができていない。	他園児さまとの交流する手段として、直接訪問して交流する機会をつくってもらうことを想定していましたが、受け入れてくださるところを探すのが困難であるのが現状の課題。	ご利用されているお子さまが通われている保育園などへ訪問する機会を通じ、園の先生方と職員同士が信頼関係を深めて、こちらから子ども同士の交流を促す機会をつくれるよう提案していきます。
3	地域住民との交流ができていないところ。	緊急時に子どもたちが取り残されないよう指定避難先には最低限のつながりはできているが、子どもたちの特性上の課題の共有までには至っていない。	避難訓練などの機会を通じて、支援が必要な子どもたちの理解を促している機会を作っていければ、その後の地域住民との交流が活発になると考えられます。